

### 第3回鶴岡市赤川かわまちづくり協議会（会議録）

- 日 時 平成30年11月12日（月）午後2時30分～午後4時40分
- 会 場 鶴岡市職員研修会館 第1、2研修室
- 出席委員 渡邊 一哉会長、水野 重紀委員、石原 純一委員、山田 鉄哉委員  
佐々木 邦夫委員、佐藤 しおり委員、渡邊 真理委員  
佐藤 友介委員、佐藤 利浩委員、阿蘇 裕矢委員
- 欠席委員 黒井 晃委員
- アドバイザー 国土交通省酒田河川国道事務所  
副所長 佐藤 俊明氏
- 国・市出席者 酒田河川国道事務所  
工務第一課長、河川管理課長、工務第一課専門官  
鶴岡市  
建設部長、建設部参事、環境課長、農山漁村振興課長  
羽黒庁舎産業建設課建設主査、櫛引庁舎産業建設課建設専門員  
観光物産課主任  
都市計画課長、公園緑地主査、公園緑地係専門員、公園緑地係主任  
公園緑地係技師
- 公開非公開 公開
- 傍聴者 なし
- 次 第
  1. 開会
  2. 挨拶
  3. 委員紹介
  4. 説明・協議
    - (1) 鶴岡市赤川かわまちづくり計画（案）について
    - (2) 今後のスケジュール等について
  5. その他
  6. 閉会

## 会議概要

### 1. 開 会

- ・都市計画課長による開会宣言

### 2. あいさつ

- ・建設部長 あいさつ
- ・鶴岡市赤川かわまちづくり協議会 渡邊会長 あいさつ

### 3. 委員紹介

- ・出席者名簿による委員及びアドバイザーの紹介  
※アドバイザー 国土交通省酒田河川国道事務所 佐藤副所長よりあいさつ
- ・11名の委員のうち、10名の委員が出席

### 4. 説明・協議

議長：渡邊一哉会長

#### (1) 鶴岡市赤川かわまちづくり計画（案）について

… 事務局より資料－1、資料－2（P1～P12）の説明 …

#### 【質疑応答】

##### 〈委員〉

- ・計画期間で、下流が4年、上流が3年とあったが、これはあくまでもエリア構想的な時間の配分であって、例えばランニングコストなどを考慮して一体的に整備をしていくという理解でよろしいか。

##### 〈事務局〉

- ・市が単独で実施できる整備で、赤川の賑わいづくりの効果が見込める部分については、上流、下流での区分に限らず、なるべく早期に進めていきたいと考えている。

##### 〈委員〉

- ・資料1のP9、緑の基本計画についての記載があるが、この緑の基本計画を少し調べたところ、自然生態の保全、緑の生態系ネットワークの形成、自然保護や環境保全への理解と普及の促進などの施策と、その主な取り組みが記載されていた。このことを踏まえて、資料2のP3では、赤川かわまちづくりのテーマの一つとなる「河川環境・景観と調和した空間の創出」があり、緑の基本計画と整合と記載されている。この整合の図り方や進め方について具体的な手法を考えているのかお聞きしたい。

##### 〈事務局〉

- ・緑の基本計画については、公園緑地の整備方針に限らず、鶴岡市全体の水と緑の保全等に係る基本的な施策を定めたものである。
- ・今回の赤川かわまちづくりにおける河畔整備や護岸の整備など、赤川の自然に手を入れる箇所においても、資料2のP10、11に記載しているが、その場所に生息して

いる動植物を含めた現況調査を行いながら、生態系への影響を考慮しながら進めていきたいと考えている。

《委員》

- ・資料1のP17、整備工程について、エリアを上流下流で分けて、早期に事業効果が見込める下流から先行して進めるとある。これは、1期2期に分けて整備するということだと思うが、2期に分け下流域を先行する理由を教えてください。

＜事務局＞

- ・現状において、上流域についてはある程度施設が整っていると考えている。それと比較し下流域については、施設の利便性の部分で大きな改善が図られると考えている。今後、日常的に人が集まってきたときの利便性の向上と7年という計画期間を踏まえて、目に見える形でその効果が期待できる下流域を先行することとした。
- ・ただし、上流域についても必要に応じた対応をしていきたいと考えている。

《委員》

- ・鶴岡の観光協会でレンタサイクルを行っている。鶴岡駅前に15台、鶴岡公園に5台配置し、貸し出しや補修についても観光協会が対応している。
- ・今回の赤川かわまちづくりの中にもレンタサイクルが挙げられているが、その運営体制について、観光協会と連携していくのか、それとも何かほかの考えがあるのかお聞きしたい。

＜事務局＞

- ・観光協会のレンタサイクルと連携した運営を想定している。
- ・ただし、管理人がいない赤川河川緑地などは、その貸し出しの仕方などについて検討が必要となる。
- ・例えば携帯アプリを活用した貸し出しも考えられる。いずれにしても、自転車の種類や貸し出し方法などの具体的な手法を、今後設置する推進協議会の場で検討していく。

《委員》

- ・資料1のP26に鶴岡桜の会の活動が記載されている。10月に馬渡桜つつみの視察を行った。現地を見て、素晴らしい桜であることを再認識するとともに、やはり手当をしなければならない部分もあると感じた。
- ・鶴岡桜の会として、来年から自分たちでできることを実施していきたいという構想もある。
- ・整備工程について、上流域エリアなので4年後ということではなく、赤川全体を見ながら進めてもらいたい。

＜事務局＞

- ・整備工程について、市が単独で進めることができる整備で、事業の効果が見込まれる施設については、できるだけ早期の着手を目指していきたいと考えており、今後も国との調整を行いながら進めていきたい。
- ・また、資料2のP12で現在想定している整備工程を記載しているが、この中で馬渡桜つつみに係る樹勢調査を、観光の視点から早期の着手を目指したいためH33年からとしている。

《委員》

- ・資料2のP8、赤川かわまちづくり推進協議会のイメージがあるが、自分の中では、かわまちづくりの課題を分析しながら進めていく場を想定していたが、資料の中では3つの部会として自然環境部会、賑わい部会、健康交流部会を設置とある。この区分だと、例えばかわまちづくりの課題の維持管理や管理方法はどこに区分されるのか分かりにくい。この部会の区分にした考えをお聞きしたい。

<事務局>

- ・この区分にした理由としては、赤川かわまちづくりの3つのテーマごとに協議していくのが分かりやすいと考え、想定展開として記載した。
- ・ただし、委員のご発言のとおり、課題を分析する部分など不足している点もあることから、少し事務局側で検討させていただき、その方針等が決まりましたらあらためて皆さんにお知らせさせていただければと思う。

《委員》

- ・資料2の10、赤川下流域エリアの整備メニュー案で観覧エリアの記載がある。既存の草地が観覧エリアとして整備されることで、スポーツはするだけでなく「観る」という支え方もでき良いことだと思う。
- ・そこで、整備主体の話になるが、整備項目の赤枠が国整備、緑枠が市整備となっており、この観覧エリアは黄色枠である。誰が整備していくのか。

<事務局>

- ・標記が分かりにくく申し訳ないが、この観覧エリアの標記はその範囲を表したものである。
- ・実際の観覧席として利用できる整備項目は階段工となる。よって整備主体は国となる。

《委員》

- ・全体が観覧席になるというイメージではないということか。

<事務局>

- ・三川橋から羽黒橋までの区間全面をコンクリート階段にするということでない。
- ・現在ある階段の幅を広げるというイメージとなる。
- ・花火大会などの大きなイベント時の観覧席としての利用も想定しているが、赤川の氾濫を防止する堤防ということが大前提である。階段工の形状や機能などについては、やはり今後設置する推進協議会で決めていくものとなる。

《委員》

- ・現在のスポーツでの利用状況は、試合を行っているチームだけしか観覧できない。このような整備を進めれば、大会を運営する側の利便性の向上にもつながり、また、多くの人が集まることができ、さらに花火大会の際の混雑の緩和につながるのではないかと。良い方向に進めていければと思う。

《委員》

- ・まちとかわを繋ぐ移動の手段として、現段階では何を一番に想定しているか。

<事務局>

- ・車での移動を想定している。

《委員》

- ・車での移動を想定ということ踏まえて、資料2のP12の計画の部分で、駐車場の

整備項目がある。例えば上流域の馬渡桜つつみは、特に観光的な要素から人が集まることが期待できる場所だと思うが、こういった箇所についても上流と下流の区別なく整備進めていくという理解でよろしいか。

<事務局>

- ・駐車場の整備の工程については下流域の赤川河川緑地から進めることを想定している。馬渡桜つつみ付近の駐車場の整備箇所は、国の河畔整備との調整が必要であり、その他にも現況調査も見込まれる。まずは、ある程度市が単独で実施可能な、現況未舗装の駐車場となっている赤川河川緑地から着手し利便性の向上を図りたい。
- ・しかしながら一体的な空間整備を図ることも踏まえ引き続き国との協議調整をしていく。

《委員》

- ・では整備の順番としては未定という認識でよろしいか。

<事務局>

- ・未定ということで認識していただいて良い。

《委員》

- ・このかわまちづくりというのは、現行利用している人以上に、今まで利用していなかった人たちを、まちからかわへ誘導するということが、そもそものコンセプトと理解しているが、今後、利用者が増えた時の受入先を常に念頭に入れておかなければならない。
- ・また、車の移動だけでなくレンタサイクルの要素も含まれてくる。このレンタサイクルについても、その目的に沿った基地、スタート地点を設定することも大事なところだと思う。

《委員》

- ・資料2のP11、馬渡桜つつみについて、この付近は一般の車両も通行するが、幅員が狭く大型乗用車になるとすれ違いが困難なところもある。
- ・今後も車や自転車、また桜を見に来る歩行者は、この桜つつみ沿いをメインに利用することになると思う。
- ・資料にも側帯の整備などの記載があるが、整備を進めていく上で必要に応じて道路の拡幅を行う予定はあるのかお聞きしたい。

<事務局>

- ・馬渡桜つつみも含む堤防天端の整備とその運用について、国と協議をさせていただいているところである。
- ・ジョギングコースや遊歩道での利用も想定していることから、盛土などによる拡幅も検討したところではあるが、用地補償や地元住民への説明、周辺の景観との調和なども踏まえると、現段階では部分的な拡幅と使い方などのルールを決めた運用で対応したいと考えている。

《委員》

- ・導線というのは非常に重要だと思う。今回の計画における導線はあくまでもイメージで、今後の利用状況によっては進入ルートなどの再検討をしていくという理解でよろしいか。
- ・具体的にいうと、資料2のP11の王祇橋から桜つつみに向かう導線はかなり狭く、進入するのが少し難しいところもある。この部分も含めて考えをお聞きしたい。

<事務局>

- ・王祇橋からの導線は、渡邊会長がおっしゃるとおり進入が難しい場所だと認識している。
- ・市としても、この桜づつみにおいて賑わいづくりを進めたい想いもあり、地元住民の方々の理解を得ながら導線についても再検討していく。

(2) 今後のスケジュール等について

… 事務局による資料－2（P13～P19）の説明 …

【質疑応答】

《委員》

- ・資料2のP17で、社会実験の体制フローが示されているが、現在のかわまちづくり協議会メンバーが協力する部分はどこか。応募があった事業者を選定することを含んでいるのか。

<事務局>

- ・事業者の選定も含んだものとなる。ただしこの協議会を開催し選定するのではなく、「賑わいづくり準備会（仮称）」のような組織を立ち上げ、その会議に協力をいただければと考えている。

《委員》

- ・社会実験について、鶴岡市内では初詣、春の花見、天神祭、荘内大祭などで露店が並ぶ。これはその期間だけ出店されるものだが、この社会実験は通年で出店しているというイメージなのか。

<事務局>

- ・期間としては通年での出店許可となるが、実際に営業をするのはその事業者の判断によるものとなる。おそらく土日の営業がメインとなると思われる。
- ・また河川敷きでの活動になるため、増水時等の対応が容易となる移動販売車での営業活動を想定しているが、それに限定した公募の仕方ではなく幅広い活動ができるような公募条件としたいと考えている。

《委員》

- ・社会実験を通して、どのような効果を期待しているのか。またどのような検証方法を考えているのかお聞きしたい。

<事務局>

- ・人がどの位利用しているのか、赤川に何を求めているのか等を把握し、その手法としては、例えば店舗へのアンケート用紙の配置などにより収集したいと考えている。

《委員》

- ・赤川などの大きな川は、野生動物のオアシス的な存在となっている。今回の赤川かわまちづくり計画地においても希少な動植物の生息が確認されている。今後整備を進める際には、この生態系への影響が極力少なくなるように、繰り返しになるが現況調査を必ず実施して進めてもらいたい。

《委員》

- ・ほかに意見がないようなので、本日提示された鶴岡市赤川かわまちづくり計画（案）を以って、今後事務局より申請を進めていただくということによろしいか。

… 異議なし … （承認）

《委員》

- ・では、協議事項についてはここで終了となるが、最後にこの赤川かわまちづくりの実現に向けた思いなど各委員から一言頂戴したい。

《委員》

- ・正直申し上げて、もう少し水の利用に関する内容があればと思っている。
- ・近年は子供たちが川で遊ぶこともなく、また川にどんな生物がいるかもわからない状況で、学校でも危険なことはしないように指導している。
- ・新潟県には川を泳ぐ魚を実際に観察できる施設がある。赤川でもそういった施設や取り組みができれば、子供たちの学習の場として活用でき、川が身近になるのではないかと思う。
- ・赤川には魚以外にも多くの動植物が生息している。カブトムシがいる中洲もある。「中洲に近づかないように」ではなく、中洲に安全に行けるようにすることも考えていければと思う。
- ・今後進めていく中で、川の中の議論を中心にお手伝いできればと思う。

《委員》

- ・普段は街なかにいるため、赤川のことで知らなかったことが多くあった。今後、このかわまちづくり計画が良い方向に動き出し実現できればと思う。

《委員》

- ・先ほどの委員の話にもあったが、中洲に行けるようにすることも一つの手法だと思うが、何が危険なのかを教える方策も重要だと思う。昔はその危険なことを子供たちの先輩後輩の繋がりの中で教え合ってきた。
- ・繰り返しになるが、赤川には魚介類をはじめ多くの動植物が生息している。こういった情報も加えながら計画を発展してもらえればと思う。

《委員》

- ・今回示された計画のアウトプットは、かわまちづくり計画の中で収まるものと思うが、真の狙いはこれをいかにしてまちづくりの中で展開していくかということだと思う。
- ・展開していくには市として決意が重要だと思う。
- ・社会実験も計画しており、今後も様々な議論を重ねながら計画を具体化していくものと思っている。実現できるよう取り組んでいただきたい。

《委員》

- ・鶴岡市体育協会として、赤川を利用する側で参加させていただいた。
- ・スポーツをする側として、駐車場や水回り、トイレなどに不便を感じていたところで

あるが、今回の計画が実現すれば益々利用する頻度が増えるのではないかと期待している。

- ・ 今後はこういった施設の維持管理が課題として挙げられる。人が集まるようになればゴミも増えるなど、清掃や日常の管理に対して利用団体がどのようにその役割を果たしていくのかが求められる。今後も議論する機会を設け検討していただければと思う。

#### 《委員》

- ・ 平成28年の赤川花火大会の事故を受け、昨年、赤川花火実行委員会で大規模な安全基準の見直しを行った。
- ・ 途中で見直しをかけることは大変な作業であり、当初より詳細な基準を設定することが重要だと感じた。
- ・ 今回のかわまちづくり計画を進めていく上では、徹底した安全対策を講じながら、かわと人を繋ぐまちづくりをしていただければと思う。

#### 《委員》

- ・ 大きな事業を展開していくと批判的な意見も出てくると思う。今後事業を進めていく過程の中では、できるだけ多くの市民の声を聴きながら、すべての意見を反映させることは困難であっても、そういった意見を無下に扱うことなく丁寧な回答を行うことで、批判的な意見も軽減できるのではないかなと思う。
- ・ 利用者の顔を思い浮かべながら計画を進めてもらえればと思う。

#### 《委員》

- ・ この計画が実現し、鶴岡の財産が増えることに期待している。
- ・ ただし、この計画は知らない人の方が多くいる。市民がもっと期待できるようなPRをしていただければと思う。

#### 《委員》

- ・ 赤川の近くに住んでいるものの、知らないことが多くあった。
- ・ 計画が実現し、その利用の対象となる人は若い世代が中心となると思うが、高齢者の視点も踏まえて進めていただき、多くの世代で賑わう気軽に行ける場所になれば良いと思う。

#### 《アドバイザー》

- ・ 赤川かわまちづくり計画を初めて見た時に感じたことは、「赤川をどのように利用するのか」の姿が見えないことであったが、本日の計画書の中には、その方針等が組み込まれており、形が見えてきたと感じたところである。
- ・ この協議会では、委員の皆さんが提案したアイデアをさらに評価するという取り組みをされており、今後は推進協議会の場で議論していくとのことで、こういった取り組みは参考とさせていただきたい。
- ・ 提案されたアイデアは実現性の高いものが多く、例えば、維持管理に関しては、柱はやはり利用者での清掃活動、また有料化も一つの手法だと思う。
- ・ 樹木の伐採についても公募により実施することで整備費用を削減することができ、ま

た、民間企業の協力も必要なことだと感じた。

- ・かわとまちを繋げるアイデアでは、やはり日常的に人がいないと誰も来ないということになるので、日常的に使うという部分をベースに各種施策に結びつけてもらえればと思う。
- ・まずは計画の骨組みをしっかり作り、その後発展させていってもらえればと思う。
- ・何を行うにしても、市民の参入、民間の参入が一番のカギとなる。また、関係機関の連携もしっかりやらなければ、計画自体がすぼんでいくことも考えられる。国においてもサポートを行っていくので、今後もよろしくお願ひしたい。

#### 《委員》

- ・3回の協議会で十分に議論が尽くされたかとなると、まだまだ課題が多く残っていると思う。足りない部分というのを認識しながら、これからの推進協議会にバトンを引き継いでより良い計画、そして実現に向けて進んでいくことを願う。
- ・協議会を開催するにあたり、事務局と何度か打合せをさせていただき、委員の皆さんからアイデアを考えてもらうという提案をさせていただいた。そのアイデアに対して63件の評価があった。このことは、今後の市民への問いかけや意見聴取をする際の、大きなアイデアが詰まっているものとする。
- ・この協議会に携わり、赤川に頻繁に行くようになった。実際に行ってみると赤川は大きな川で、また多くの歴史があることが分かる。
- ・赤川は水害の多くあった川で、堰堤を歩くと水神様などいろんな地鎮に関する祠が至る所にあり、また資料にもあったが、鶴岡の開墾のはじまりが赤川だったことや馬渡の桜づつみも含めてその歴史を実感することができる。
- ・赤川には歴史を含めて多くのポテンシャルがあると感じている。
- ・本日でこのかわまちづくり協議会は閉会という形となるが、この事業が完了するまで委員の皆さんからは引き続きご協力をいただきたく思っている。
- ・最後に、10年20年後においても、赤川を次の世代へ引き継いでいける場所として残していければと思う。

#### 進行：事務局へ

##### 5. その他

… 意見・質問等なし …

##### 6. 閉会

- ・都市計画課長による閉会宣言